

(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

# 東方だより

令和2年度前期号 (通号第36号)

〒101-0021  
東京都千代田区外神田 2-17-2  
延寿お茶の水ビル 4階  
TEL : 03-3251-4081  
FAX : 03-3251-4082  
<http://www.toho.or.jp>  
<https://www.toho-gakuin.org>

## 目次

理事長ご挨拶	1頁
新評議員ご紹介	2・3頁
芳名録	4頁
講師・研究会員・研究員の声	5〜7頁
各種報告	8〜11頁
新刊紹介	2・3・4・8・9頁
事務局通信	12頁



## 新型コロナウイルスを考える

—理事長ご挨拶にかえて—

### 前田専學理事長



中国の武漢から始まった新型コロナウイルスは徐々に拡散して世界中に蔓延しました。東京も二月に入って感染者数が次第に増え、外出の自粛、密閉・密集・密接を避け、特に老人、既往症のあるものの外出を極力控えることが求められました。

その影響は(公財)中村元東方研究所と東方学院にも及びました。最初に影響を受けたのは二月十七日に予定していた新春研究発表会でした。お約束頂いた講師の先生にお断りの連絡をし、講演会の後に予定していた懇親会も多額の違約金を払ってキャンセルの止むなきに至りました。

その後も感染者の数が増え続け、ついに安倍首相が二月二十七日全国すべての小中学校と特別支援学校について、三月二日から春休みに入るまで臨時休校するように要請するような情勢になっていました。四月七日安倍首相は改正新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づき初の緊急事態宣言を発令しました。東方学院では例年行われている講師の先生方

の講師懇談会もキャンセルし静観する事になりました。

しかし四月になっても感染者の数はさらに増え続け、四月二六日頃には感染者の数はピークに達しました。その後は次第に感染者の数も減り始め、安倍首相の緊急事態宣言の全面解除が五月二五日に行われ、罰則を伴う強制的な外出規制などを行い得ない日本ならではのやり方で、僅か一ヶ月半でほぼ収束させることが出来た事を誇らしげに語りました。

東方学院は四月三〇日に、五月一杯は休講とし六月一日からの開講を決め、各講師と各研究会員に連絡を差し上げましたところ、若干の講師の方々から異論が表明されました。種々検討を重ねた結果五月二一日、三密を避けられない教室の現状を見ると、今年度の全講義を休講にすることに決し、全講師と全研究会員に通知いたしました。創立以来初めての大事件であります。

新型コロナとの共存は当分避けられない現状と、また急には変更できない教室の狭さの事を考えると、来年度の東方学院は、現在各大学で採用しているZOOMという会議用の道具を使わざるを得ないかも知れません。そうすればパソコンやスマートフォンが必須になります。ですが、それを使えない方をどうするかも考える必要があります。皆さんならどうされますか、あるいはどうされたいか、ご意見やご希望をお寄せください。



# 新評議員ご紹介

## 評議員就任のご挨拶にかえて

### 林康夫 評議員



この度、中村元先生の創設された「東方研究所」の評議員を仰せつかり、浅学菲才の身であるゆえに誠に恐縮

しております。

このような 権威と伝統のある組織の評議員が私ごときに務まるのか大きな不安はありますが、精いっぱい努力するつもりですのでよろしく願います。

ところで最近私はネパール、インドとチベットを訪問する機会がありました。インドでは、ルンビニの「アショカ王の石碑」仏陀の母が祭られている「マヤ・デヴィ寺院」を見学後、仏舍利が発掘されたと言われるピプラハワを訪問、その後クシュナガルに向かい釈尊の涅槃像のある大涅槃寺を見学しました。この行程は数時間を超える大変なバスの旅でした。ところが、驚いたことにルンビニからクシュナガルの距離は玄奘が十六年間に徒歩で歩いた距離の1%にもはるか満たないもの

だったのです。危険を冒しながら長い距離を徒歩で歩いた玄奘の行動は、インドから經典を持ち帰るとの純粹な動機と燃えるような情熱なしでは決して実現することがなかったろうと思つたことでした。

チベットでは高山病に苦しみましたが、ポタラ宮をはじめ、ネパールと唐から降嫁した二人の妃の建立したラモチェ寺、トウルナン寺などチベット人の心のよりどころとなっている寺院を訪問することが出来ました。チベットに関しては明治以来この地を目指した日本人一〇人の話が江本嘉伸の「西藏漂泊」に紹介されています。様々な目的があつた人たちですが、その半数は、仏教の修行や經典(大藏經)の入手が目的だったとのこと。インドで入手した經典は全て玄奘三蔵を中心に漢語に翻訳され、そしてチベットでもすべてチベット語に翻訳されたとのこと。最澄や空海等日本の僧に託された仏教の教えとその經典が日本に持ち返られたにも関わらず、日本語訳がないというのはいかにも寂しいことだと思つています。

はやし やすお

1942年神奈川県生まれ。東京大学法学部卒業。1966年通商産業省(現経済産業省)入省。基礎産業局長、通商政策局長、中小企業庁長官を歴任。退官後、三井物産代表取締役常務取締役、副社長執行役員兼欧州三井物産社長、同社顧問、日本貿易振興機構理事長を経て、2011年同機構顧問、現在に至る。

## 新刊案内

### 前田專學編 『原始仏典Ⅲ 増支部經典 第八卷』



原始仏教の世界を平明な訳文で記す、『原始仏典』I・IIにつづく決定版。

『パーリ語三蔵』の「經藏」に収められている原始仏教經典、『長部經典』『中部經典』『相應部經典』につづく『増支部經典(アングッタラ・ニカーヤ)』の現代語訳。「沙門であるという認識」「的を射ていること」「追憶」など、第十集第11章以降および第十一集を収録。

単行本：434頁

出版社：春秋社

発売日：2020年6月10日

ISBN-13：978-4-393-11358-5

言語：日本語

定価：本体7,000円(税別)

# インドの人々に学んで

## 竹中千春評議員



このたび評議員を拝命いたしました竹中千春です。国際政治の授業を教えながら、インドの歴史と政治を研究

しています。

インドについて学びたいと思っただけは、マハトマ・ガンディーでした。非暴力を旗印にサツティヤグラハを実践し、民衆を率いて母国の独立をめざした人。ベトナム戦争や安保闘争の時代に「戦争を知らない子どもたち」として育った私には、「平和への鍵」がインドで見つかるのではないかとという期待がありました。

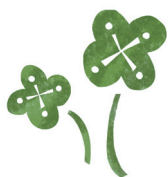
インド政府奨学金をいただいてデリー大学に留学したのは、一九八〇・八一年インディラ・ガンディー政権のときです。法学部で学んだだけで、中村先生のご業績はもちろん日本の豊かなインド学を学ばないまま現地に飛び込みました。無知ゆえに、ガンディーの理想とかけ離れた現実に打ちのめされたのが、最初のインド経験です。

それから四〇年近くが経ちました。インド各地を訪ね、人々に出会い、友人にも恵まれました。何よりも、インドの人々から、人と

して生きるための知恵と勇気を教わったと思います。貧困・差別・暴力などの苦境にも諦めず、知恵を学び、仲間とともに戦う姿勢です。

大学の研究室に、盗賊の女王と呼ばれたプーラン・デーヴィーにもらった仏像があります。国会議員となった彼女は、アンベドカルの平等思想や女性のエンパワメントを力強く語ってくれました。ガンディーにも盗賊に武器を置かせた逸話がありますが、中村先生の『ブツダ伝』や『ブツダの人と思想』には、ブツダと大盗賊アングリマラーの対話と、帰依したアングリマラーが正しく生きようとした様子が生き生きと描かれています。中村先生の文章を読みながら、人としての目覚めこそが「平和への鍵」に他ならないと痛感しています。

ありがたいご縁で公益財団法人中村元東方研究所のお仕事に繋がらせていただくことになりました。身に余る光栄です。微力ですが、少しでもお役に立てれば幸いです。どうぞよろしくご指導の程お願いいたします。

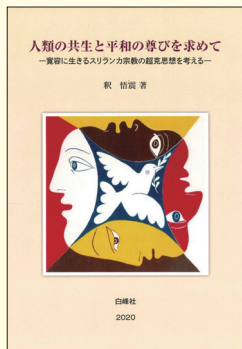


たけなか ちはる

1957年生まれ。東京大学法学部卒業。立教大学法学部教授。  
日印協会理事、国際文化会館評議員、日本平和学会会長。  
『盗賊のインド史』(2010)、『ガンディー—平和を紡ぐ人』(2018)

## 新 刊 案 内

### 釈悟震著 『人類の共生と平和の尊びを求めて —寛容に生きるスリランカ宗教の超克思想を考える—』



日本であまり知られていないスリランカ仏教について「寛容」と「共生」の視点からまとめた、一般の方向けの研究論集。仏教とキリスト教の世紀的大教義論争「パーナドゥラー論争」、スリランカのNGO活動・サルボーダヤ(Sarvodaya)運動、森林道場アランニヤ(阿蘭若)行者の実相、原始仏典から導かれる「業と宿業」をのりこえられる叡智、そして、日本とスリランカの架け橋・ジャヤワルデネ大統領演説に関する全7章が納められている。世界の人々に向けた「人類の共生と平和の尊び」という中村元博士の深層心理を拝借しつつ著者畢生のメッセージが込められた論集。

単行本：301頁  
出版社：白峰社  
発売日：2020年3月30日

ISBN-13：978-4-938859-34-3  
言語：日本語  
定価：非売品

### 令和2年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※令和2年9月11日受領分までを掲載しております。

#### 維持会員

一心寺 石上和敬 宇杉真 小笠原勝治 川崎信定 川崎大師平間寺 齋藤敬 株式会社山陰中央新報社 史跡足利学校事務所 清水谷善圭 釈悟震 株式会社春秋社 淳心会(日野紹運) 末廣照純 浅草寺 高崎宏子 高橋堯英 高松孝行 中央学術研究所 千綿道人 津田眞一 公益財団法人東洋哲学研究所 トヨタ自動車株式会社 中田直道 成田山新勝寺 日本ヨーガ禅道院 念法眞教金剛寺(桶屋良祐) 羽矢辰夫 比良佳代子 公益財団法人仏教伝道協会 法清寺(奈良修一) 前田專學 前田式子 水野善文 三友健容 学校法人武蔵野大学 葉王院 吉田宏哲 渡邊信之

#### 賛助会員

阿部敦子 粟野芳夫 石井勝彦 入井善樹 石上智康 白井ふじ子 遠藤康 大井玄 太田正孝 大谷光真 小笠原隆元 川崎寿子 桂紹隆 菅野博史 北村彰宏 木村清孝 倉田治夫 黒田大雲 桂徳院(山本文溪) 小林正和 小林守 小林和子 小峰啓誉 小峰立丸 小山典勇 金剛院(山田一眞) 公益社団法人在家仏教協会 斎藤明 佐久間秀範 佐久間留理子 櫻井瑞彦 桜井俊彦 佐藤行教 下田勇人 真観寺(中村重継) 新本均 末木文美士 須佐知行 鈴木忠一 関戸堯海 高橋審也 田上太秀 武田浩学 立花ひろ子 田丸淑子 千葉よし子 角田泰隆 鶴谷志磨子 株式会社展勝地 天寧寺(永江雅邦) 洞雲寺 當間哲也 徳田勝洋 中谷信一 中村久夫 中村行明 西尾秀生 西岡祖秀 西川高史 西宮寛 日本ヨーガ学会 長谷川恵子 畠中光亨 花岡秀哉 一月正人 平井恭子 福重利夫 福留順子 福原正直 身延別院(藤井教公) 藤井知興 藤田宏達 法恩寺(藤原敏文) 寶幢院(原隆政) 保坂俊司 堀江順司 松浦和也 松原光法 松本知巳 的場裕子 三木保 水谷俊一 宗教法人密蔵院(山口正純) 三友量順 宮元啓一 森祖道 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司

#### ご寄付

川崎信定 石崎直樹 落合大祐 木村正子 肥沼田鶴子 小林和子 佐藤恭子 清水谷善圭 釈悟震 田中康子 千綿道人 中田直道 二宮庸子 比良竜虎 深澤哲也 福重利夫 福原正直 丸井浩 御園生妙子 宮本耕一 宗像利幸

#### 東方学院創立50周年記念事業ご寄付

石上善應 石上源應

#### 東方学院 創立50周年事業

多くの方々の温かいご理解とご支援によりまして、公益財団法人中村元東方研究所は来たる2020年11月、東方学院は2023年4月に、それぞれ創立50周年を迎えようとしております。そこで、来たる2023年度に東方研究所/東方学院の50周年を併せた記念誌の刊行および記念行事を予定しております。他方、新型コロナウイルスをめぐる難儀の世相におきまして、皆様厳しい状況をお察し、ご迷惑をおかけするおそれと拝察し、同実行委員会では当該行事のための経費を最小限に抑えて遂行すべく事業の見直しを図っている現状でございます。このような状況にもかかわらず、中村元先生の御雄志の継承と存続のために、当該記念行事遂行にご賛同下さる方々からの御芳志を頂戴いたしましたこと深く御礼申し上げます。

## 新 刊 案 内

末木文美士著 『日本思想史』 (岩波新書)



古代から現代にいたるまで、日本人はそれぞれの課題に真剣に取り組み、生き方を模索してきた。その軌跡と膨大な集積が日本の思想史をかたちづけているのだ。〈王権〉と〈神仏〉を二極とする構造と大きな流れとをつかみ、日本思想史の見取り図を大胆に描き出す。混迷の今を見据え、未来のために紡がれる、唯一無二の通史。

単行本：262頁  
出版社：岩波書店  
発売日：2020年1月23日  
ISBN-13：978-4-00-431821-7  
言語：日本語  
定価：本体 880円 (税別)

東方学院 講師ご紹介

北川 前肇 講師

(東京本校・新)

「求道」を生涯の目標として



昭和三十五年(一九六〇)年三月、小学校卒業後、仏門に入った私

は、中学、高校時代の七年間を師範の膝下において、昭和四十二年(一九六七)年四月、立正大学仏教学部に入學。「宗学」専攻の立場から、日蓮聖人の教え、法華經の教えを探究して卒業論文をはじめ、研究論文に取り組んできました。その過程で選んだ研究方法は、宗祖日蓮聖人の生き方、考え方を学び、法華經に示される久遠の釈尊に直参するというものです。つまり、仏弟子となるための出家です。すでに七十歳の定年を迎えてい

る今日、自坊において、漢訳『妙法蓮華經』の教えを拜読する月例講座を開講し、現在は新型コロナウイルスの感染症を避けるために、休講してはいますが、収束後は復活したいと思っています。また月刊誌『大法輪』に「法華經へのいざない」という題名のもと、令和二年七月号まで全四十三回にわたり、法華經二十八品の教えについて執筆いたしました。

今日まで、いつも座右の辞書としてお世話になっているのが、中村元先生著『佛敎語大辞典』です。漢語としての仏敎語が、サンスクリット原典、パーリ語原典ではどのように表現されているかを適格に教えてもらえるからです。そして、その深いご縁のもと、東方学院へ出講させて頂くことの尊さを、あらためて感謝しています。

きたがわ ぜんちょう  
1947年、福岡県生まれ。立正大学大学院文学研究科博士課程満期退学。文学博士。立正大学名誉教授。現在、東京立正短期大学長。世田谷区妙揚寺住職。著書に『日蓮敎学研究』、『法華經 永遠のいのちの敎え』など。

宮元啓一 講師

(東京本校)

自由と寛容こそ学問の命



本院では、「インド哲学の探求」(金曜日)と「東洋思想の探求」(土曜日)の二つの授業を担当しております。内容は多岐にわたりますので、おおよそ二年ごとに読むテキストを替えて来ました。今年度は新型コロナウイルスの流行のため、授業はありませんでしたが、来年度は、金曜日には、ヘーダエートウツラ著(宮元訳)『中世インドの神秘思想―ヒンドゥー・ムスリム交流史』(刀水書房)を、土曜日には先年に引き続き『葉隠』(上)(岩波文庫)を講読する予定です。

授業は、「正しい」哲学思想を求めものではなく、さまざまな価値観にもとづくさまざまなものの考え方を、哲学史・思想史の流

れのなかで理解しようというものです。自分では思いついたこともないいろいろな考えがインド、広く東洋では興亡してきました。異なる考え方を広く理解することは、ひいては、自分の考えも豊かにするものだ、わたくしは確信して已まないからです。分らないときには、遠慮なく質問してください。わたくしにも分らないことがあると思いますが、そのときには、なぜ分らないのかを探求します。分らない理由をきちんと述べられたなら、それはもう立派な哲学・思想だと言えますので。自分とは異なる考えを真剣に考える、これほど楽しいことは滅多にないと思います。



みやもと けいいち  
1948年東京生まれ。1972年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。1997年文学博士。1975年東方研究会(現・中村元東方研究所)専任研究員。1995年國學院大學文学部教授(哲学科)。現在、同大学名誉教授。

### 東方学院 研究会員の声

#### 中倉圭子さん (東京本校)

二年前から東京本校へ通い始めました。釈悟震先生の講座を受講しております。数年前、恩師が釈先生の講座を受講したことがきっかけで、釈先生との出逢いがありました。中村元先生の著書から、東方学院へのご縁があったと伺っております。

その頃の私は、自分が通うことは想像もしていませんでした。仏教や文化を学んでこなかった私が、通ってもいいのかわからないのか、最初は迷いました。海外の方とお仕事をする中で、日本人とは、日本とは、そこで生きる私とは…。様々な問いがありました。その好奇心から、通うことを決めました。中村元先生の動画を拝見し、生き生きとしたお声から、興味が湧いていたことも背中を押してくれました。

釈先生の講座では、ブツダは何と言っていたのか。今、世界では何が起きているのか。自灯明法灯明、慈悲、寛容の精神…。どれも実践する難しさを実感する日々ですが、生きるヒントや勇気を頂いています。今年はコロナの影響で休校になってしまいましたが、こんな時こそ相手を想う関わり、人のいたみを想像してふるまえるよう、日々精進して参ります。中村元先生の名著「日本人の思维方法」をテキストとして学べる日を楽しみながら通っております。



2019年1月、友人たちと京都御苑にて。

#### 服部育郎先生の講義に期待しています (中中部校)

本年度の服部先生の講義は、『スツタニパータ』をテキストとして、初期仏教の基本思想を読み解く内容でありましたので、私は大いに期待をしておりました。それと申すのも、私は公務員を定年退職を機に、仏教思想に興味を持ち、生涯学習の一環として、京都市内の大学の仏教学部の三回生に編入学しました。現在は、同大学の修士課程を経て、博士後期課程に籍を置き、原始仏教の研究に当たっておりますところ、服部先生におかれましては、数多くの初期仏教経典の翻訳に当たられるなど、誠に卓越した学識・見識を有しておられますことから、同講義を通じて私の研究に關してヒントとなるような見解も教授していただければと思います。



中村元訳『スツタニパータ』

#### 柳原忠人さん (中中部校)

その講義は休講となつてしまいました。『スツタニパータ』は、現存する初期仏教経典の中でも、古層の文献資料で、特にその第四章及び第五章は、ブツダが生存しないその直後の時代の最古層の思想を伝える資料であり、服部先生の来年度の講義においては、仏教の根本思想に加え、ブツダは実際には何を説いたのかという基本的立場についても教授していただけると幸いです。

#### 菊池幸恵さん (東京本校)

令和元年度に、釈悟震先生の「東アジア仏教と文化へのいざない」を受講させていただきました。釈先生はとても優しく、仏教初学者の私の拙い質問に丁寧に答えて下さったり、突然の雨降りに傘をお貸し下さったりと、大変お世話になりました。茨城の日立市から約二時間かけて東京本校に通っておりますが、特急列車の中はテキストの予習復習の時間として最適でした。講義中はいつも和やかな雰囲気、仲間にも恵まれ、本当に楽しい一年間でした。

本年度も継続受講を考えていた矢先に、この新型コロナウイルス感染症拡大により、講義が一年中止となり、大変残念です。このウイルスは全世界で猛威を振るっており、一人一人がこの不条理な世の中で、いかに生きるべきか、生の課題を突き付けられているような気がいたします。私はその答えをこれから中村先生のご著書の中に求めていきたいと思っております。そして、講義が再開されたあかつきには、仏教においてはどのように解釈するものなのか、釈先生始め東方学院の諸先生方と学びたいと思っております。



先生方そして会員の皆様におかれましては、何卒ご自愛下さいますよう。心よりお願い申し上げます。

研究員の声

服部育郎 専任研究員

「慈しみの心」執筆の  
ご縁をいただいて

中村元博士の故郷、島根県の新  
聞「山陰中央新報」に毎日掲載さ  
れる一面コラム「中村元、慈しみ  
の心」(中村元記念館協力)を書  
かせていただいている。前田專學  
博士の第一回から諸先生が執筆さ  
れ、私のご縁をいただいたのがお  
よそ二年前であった。



つこの基準に  
した。また、  
先生自身が  
語られてい  
る言葉も紹

「慈しみの心」は「慈悲」とも  
いえ、中村先生が最も重視された  
教えの一つである。「慈悲」(講談  
社学術文庫)という御著書もあ  
る。新聞では、慈悲に関するイン  
ドの文献や仏典などから引用し、  
簡単な解説を加えている。引用文  
の選定は悩んだところであるが、  
中村先生の数多くの著書から、慈  
悲に関して(直接的、間接的に)  
たびたび引用されているものを一

介している。「苦難多きこの世に  
あつて人々が明るく楽しく生きて  
ゆくためには、他人に対する暖か  
な思いやりと心からの同情心をも  
たなければならぬ」は、『慈悲』  
の「はしがき」に出る言葉である。

経典には「私は、他人の苦しみ  
をなくさなければならぬ。なん  
となれば、それは苦しみであるか  
らである。それは、私自身の苦  
しみをなくさねばならぬのと同  
様である」(『入菩提行論』)とあ  
る。つらく苦しい時でも、暖かい  
共感があるなら、心はゆたかであ  
る。「慈しみの心」こそは、苦難  
を乗り越え、生きる指標としても  
重要ではないか。執筆の過程で私  
自身も多くを学ばせていただい  
ている。これらの内容は中村元東  
研究所のホームページ内 (<http://www.toho.or.jp/prs.php?pg=2>)  
に、第一回

から掲載さ  
れているか  
らご覧いた  
だきたい。

はっとり いくろう

昭和36年三重県生まれ。駒澤大学大  
学院人文科学研究科博士過程満期退  
学。ブネー大学大学院留学。Ph.D.(ブ  
ネー大学)。現在、東方学院講師、愛  
知学院大学非常勤講師など。主な著書  
に『テラガーター 真の心の安らぎ  
とは何なのか』(NHK出版)、『インド  
仏教人物列伝』(大法輪閣)など。

山崎一穂 専任研究員

仏教説話文学の  
理解に向けて



私の専門  
はインド古  
典文学で、  
サンスクリ  
ット語で書  
かれた仏教説話を対象とした研究  
を行っています。ブツダと彼の弟  
子達の説話は、仏典の三蔵のうち、  
主に経蔵と律蔵に収められていま  
すが、これとは別に独立して書か  
れた説話もあります。西暦二世紀  
頃には、仏典の説話を文法や修辭  
などに関する様々な規則に従った  
洗練された文体で歌い上げた作品  
が現れます。それらを総称して仏  
教芸術文学と呼んでいます。私は  
大学院在学時まで、仏典の説話と  
仏教芸術文学作品に見られるその  
並行話との伝本比較を中心とした  
研究を行って来ましたが、近年は、  
仏教芸術文学で使われる語彙や文  
体などに注目し、個々の著作家が

作品を書くに至った文学史的背景  
を探ることを試みています。こう  
した中で、二〇一八年六月より一  
年間、公益財団法人仏教伝道協会  
日本人奨学生として、カナダのマ  
クマスター大学にてシェーン・ク  
ラーク教授の指導のもと、律蔵の  
説話とそれに取材した仏教芸術文  
学の説話を研究する機会に恵まれ  
ました。「律蔵」と聞くと、規則  
を書き連ねただけの文献を連想し  
がちですが、律蔵には戒律が制定  
されるきっかけとなった出来事を  
物語る説話が詳細に生き生きと描  
かれています。それらの説話は歴  
史資料に乏しい古代インドの文化  
史・社会制度史を知る上での第一  
級資料と言えます。またそこには、  
基本的な教義や教団を維持しなが  
らも、伝統的なヒンドゥー教社会  
との共存を模  
索していた、  
現代にも通じ  
る、古代イン  
ドの仏教徒の  
姿を見ることが  
できます。

やまさき かずほ

1982年生まれ。  
広島大学大学院博士課程後期修了  
(文学博士)。2016年より本研究  
所専任研究員。インド仏教説話研  
究に従事。広島大学、尾道市立大  
学等非常勤講師

# 各種報告

令和2年7月29日(水)発表

## 前田専學理事長、「第54回仏教伝道文化賞」受賞

法人理事長・東方学院長の前田専學博士が、公益財団法人仏教伝道協会から、由緒ある第54回仏教伝道文化賞を受賞しました。印度哲学の世界的権威であり、中村元博士の後継者として東京大学で教鞭を執り、東方研究会(現公益財団法人中村元東方研究所)、日本印度学仏教学会理事長として、学会の発展・人材育成に寄与した功績を認められての受賞です。



仏教伝道文化賞とは、「国内外を問わず、仏教関連の研究や論文、美術や音楽、仏教精神を基に

活動する実践者など、幅広い分野で仏教精神と仏教文化の振興と発展に貢献した人物や団体」に贈られるものです。

贈呈式は2020年10月8日午前11時より仏教伝道センタービル(東京都港区)「和」の間にて祝賀の賞賛とともに開催されました。



令和2年9月1日(火)発表

## 第30回中村元東方学術賞「および」第6回中村元東方学術奨励賞」授賞者決定

2020年度の顕彰事業、「第30回中村元東方学術賞」及び、若手研究者に贈られる「第6回中村元東方学術奨励賞」の授賞者が、選考委員会による厳正な審査の結果、決定しました。

第30回中村元東方学術賞は、渡邊章悟氏(東洋大学教授)が授賞。同氏は『般若経』研究の第一人者で、40年にわたる『金剛般若経』研究の成果『金剛般若経の梵語資料集成』、『金剛般若経研究』をはじめ、広く大乘経典の成立展開に関する新たな研究成果を公刊して



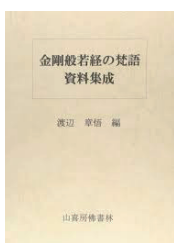
渡邊章悟 東洋大学教授

いること、及び公益財団法人仏教伝道協会が推進する英訳大蔵経の編集委員として1994年より現在まで努めるなど、国際交流推進にも多大な貢献をしていることによる授賞です。



『金剛般若経の研究』山喜房佛書林(2009)

著者による学位請求論文。金剛般若経の成立から発展の流れを考察し、『般若経』発展史の中での本書の位置づけを明確にしようとするもの。



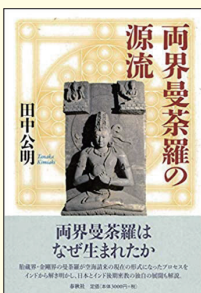
『金剛般若経の梵語資料集成』山喜房佛書林(2009)

筆者が研究の当初より着実に研究積み重ねた『金剛般若経』のサンスクリット語の資料を収集したもの。資料編として今後の研究に貢献するものである。

## 新刊案内

### 田中公明著 『両界曼荼羅の源流』

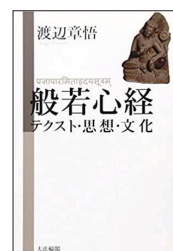
胎藏・金剛界の両界曼荼羅の成立過程をインドに遡って解明。あわせてインドの後期密教や日本で独自に発達した浄土や神道系の曼荼羅も紹介した、格好の曼荼羅の入門書。2004年の『両界曼荼羅の誕生』を最新の画像と研究成果を反映させ大幅リニューアル。



単行本：320頁  
出版社：春秋社  
定価：本体 3,000円(税別)

ISBN-13：978-4-393-11259-5  
言語：日本語  
発売日：2020年3月20日





『般若心経—テキスト・思想・文化』  
大法輪閣 (2009)

現存最古の漢訳『般若心経』とされる羅什訳「大明呪経」が偽作であるというセンサーショナルな研究を含め、『般若心経』の成立を拡大般若経の中から新たに位置付けた論文をはじめとする、般若心経に関する論文を平易にまとめた書物である。



『般若経の思想』  
春秋社 (2019)

本書は、著者の最近著。「空と智慧の経典—般若経典群—は何を説くのか? 悟りに至る完全な智慧(般若)とは? 「般若」の名を有する多くの経典は、どのように生まれ、発展し、受容されたのか。大乘仏教の始まりと共に誕生し幅広く展開された般若経について扱った画期的な解説書である。

また、若手研究者を対象とした、第6回中村元東方学術奨励賞は、芹口真結子氏(岐阜大学助教)の『近世仏教の教説と教化』が授

賞。同書は、出羽国酒田常福寺において起きた公蔵の異安心事件を綿密に調査することで、幕藩権力と仏教団の教説が相互に関与し合っている具体的な姿を示したことが、従来の「近世仏教墮落論」が前提としていたような、幕藩権力による一方的な仏教統制という枠組みを覆す重要な貢献と認められ、若干の課題を残しつつも若手研究者としての将来性を期待して、授賞が決定しました。



なお、例年インド大使館で開催されておりました両賞の授賞式および祝賀会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催は中止となりました。



### 2020年度から寄付金に関する「税額控除」対象法人認定

公益法人へのご寄付に関し、個人のご寄付者の皆様は、確定申告により寄付金控除が受けられま

す。この寄付金控除には、①「所得税控除」または②「税額控除」の二つがあります。従来、弊法人では、①「所得税控除」のみの対象でしたが、2020年3月27日付で②「税額控除」の対象法人と認定されました。今後は①か②どちらか有利な方でご申請いただけるようになりましたことをお知らせいたします。ぜひご活用ください。なお、①、②とも寄付金合計の上限は、所得額の40%です。

①「所得控除」  
寄付金合計・2000円

⇨ 寄付金控除額  
※所得税率は課税所得により異なります

②「税額控除」  
(寄付金合計・2000円)

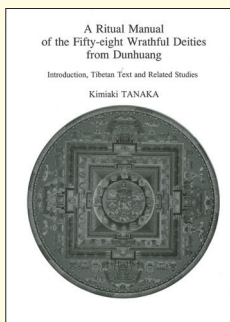
×40%⇨税額控除額  
※税控除の対象となる寄付額は、所得税額の25%が上限です。

◎多くの場合、「税額控除」を選択されると所得税額が少なくなり有利となります。一方、所得税率の高い方は、「所得控除」を選ばれると還付額が大きくなる場合もあります。確定申告の際には最寄りの税務署にご相談ください。

## 新 刊 案 内

### 田中公明 著 『敦煌出土 忿怒五十八尊儀軌 [日英版]』

敦煌出土のチベット語密教文献についての研究書。最近の敦煌学・チベット仏教研究は、日本では停滞しているため、日英二カ国語版として、海外の研究者も参照できるようにしたものの。



単行本：112頁  
出版社：渡辺出版  
定価：本体 3,000円 (税別)

ISBN-13：978-4-902119-32-9  
言語：日本語 / 英語  
発売日：2020年6月27日

## 新型コロナウイルス感染防止のため 法人の2020年度の諸行事中止及び施行

当法人では、新型コロナウイルス完成拡大防止のため、三密つまり「密集」、「密閉」、「密接」の可能性のある2020年の諸行事をすべて中止いたしました。当該の経緯につき左記のとおり報告いたします。

### 【略号：◇新型コロナウイルス関係、●法人関係】

- ◇2020年1月30日 世界保健機関 (WHO) が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC: Public Health Emergency of International Concern)」と発表
- ◇2020年1月30日 第1回新型コロナウイルス感染症対策本部会開催 (本部長 内閣総理大臣)
- ◇2020年2月1日 新型コロナウイルス感染症を感染症法上の指定感染症、検疫法上の検疫感染症に指定
- ◇2020年2月16日 第1回新型コロナウイルス感染症対策専門家会議開催
- 2020年2月10日 第16回理事会開催
- 2020年2月16日 理事長判断により、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急遽、新春研究発表会 (2020年2月17日開催予定) 開催延期と決定
- 2020年2月27日 第16回評議員会開催
- 2020年3月27日 内閣府より「税額控除対象法人認定書」が発行される
- ◇2020年3月11日 WHOがパンデミックを宣言
- 2020年3月20日 東方学院東方本校で開催する講義は4月一杯休講、5月11日より開催とする旨、東方学院講師及び、受講申

込みの全研究会員全員に連絡  
◇2020年3月28日 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針発表

- 2020年4月5日 「緊急事態宣言の瀬戸際」の状況であるとの国および東京都の発表を踏まえ、「2020年4月7日から4月19日」まで、法人事務局の事務職員出勤による事務遂行休止
- 2020年4月1日 2020年度法恩寺仏教文化講演会 (5月22日開催予定) 本年度開催次年度へ延期
- ◇2020年4月7日 東京、埼玉、神奈川、千葉、大阪、兵庫、福岡において緊急事態宣言発令 (特措法32条) (2020年4月7日から5月6日まで)
- 2020年4月7日 事務室閉室期間を5月6日まで延長
- 2020年4月9日 第1回運営委員会 (遠隔会議) にて、理事会・評議員会・学術賞選考委員会の書面による開催につき検討。講師懇談会の中止を決定
- ◇2020年4月16日 緊急事態宣言の対象を全国に拡大 (区域変更)
- 2020年4月30日 東方学院休講期間及び事務室閉室期間を5月末日まで延長。
- ◇2020年5月3日 緊急事態宣言 (対象地域を全都道府県) 5月31日まで延長
- 2020年5月7日 第2回運営委員会 (遠隔会議) にて、2020年度の法人の諸行事 (各種講演会、研究員総会等) および2020年度東方学院講義の全面休講及び受講料・事務手数料の全額返金を決定。及び理事会・評議員会・学術賞選考委員会の書面による開催を決定。また、国内外の状況を踏まえ、助成事業の追加募集中止を決定
- 2020年5月12日 2020年度東方学院講義の全面休講を関

係各位に連絡

- ◇2020年5月25日 全国緊急事態宣言解除
- 2020年5月25日 緊急事態宣言解除後も事務室開室を週2日、最小人数に限定
- 2020年5月29日 第17回理事会、一般法人法第96条の規定に従って書面による開催
- ◇2020年6月2日 東京都の感染者が新たに34人発生。東京アラートを発動
- 2020年6月2日 第30回中村元東方学術賞選考委員会、書面による開催
- 2020年6月4日 第3回運営委員会(遠隔会議)にて、非常事態宣言解除後の弊法人の運営方針の文言を確定し法人内外に公示を決定
- 2020年6月18日 第17回評議員会、一般法人法第96条の規定に従って書面による開催
- 2020年7月2日 第4回運営委員会(遠隔会議)にて、2020年10月9日開催予定の中村元東方学術賞授賞式につき、招待客を招いての式典及び祝賀会中止と決定
- 2020年7月6日 2020年度東方学院全講義休講に伴い、係わる研究会員に受講料全額返却完了
- 2020年7月10日 法人登記簿更新完了
- ◇2020年8月12日 世界のCOVID-19感染者数が2000万人を超える
- 2020年8月20日 第30回中村元東方学術賞並びに第6回中村元東方学術奨励賞授与式式典の開催中止を決定
- ◇2020年9月3日 国内の新型コロナ感染者7万人を超える
- 2020年10月9日 第30回中村元東方学術賞並びに第6回中村元東方学術奨励賞を書面・郵送にて授与

東方学院全休講についての研究会員からのお言葉

予期せぬ災害の事態により本年度休校をご決定されたことご無念のことと思えます。この時こそ全人類にとって中村元先生の真理探究が求められると痛感いたします。(A氏)

休講は大変残念ですが、長い人生のたった一年間、自宅で読書勉強し、来年に備えます。(H氏)

コロナ禍は長丁場になりそうです。このような時代だからこそ、仏の教えは大切です。楽しみにしておりますがやむをえません。(K氏)

残念ですが、不安に思いながら通うのもどうかと思いますので適切な判断と思えます。(T氏)

全休講大変残念です。状況的に休講は理解しております。来年は開催であれば必ず受講したいです。(H氏)

コロナ対応お疲れ様です。来年度の開講を楽しみにしております。それまで自学自習の機会といたします。(T氏)

残念ですがこのような状況ではやむをえません。年間独学の機会をもらったと解釈し、来年4月受講準備に備えさせていただけます。(N氏)

本当に残念ですが英断だと思います。人間国宝のような先生方に何かあったは大変です。(O氏)

オンラインは欠点が多く、対面授業は欠かせません。来年度の開講においても、アクリル板を立てる、扉を開放するなどの工夫で対面の開講を希望します。(O氏)

講座の内容によると思いますが、オンラインでの講座等もご検討いただけますと幸甚です。(I氏)

オンライン講義あるいはビデオ講義があれば、事態が平常化された場合でも利用しやすいと思います。ご検討願います。(Y氏)

私には良医のような存在の東方学院様一日でも早く東方学院の御講義が再開されます事を御祈念いたします。(I氏)



## 事務局通信

【編集部より】 東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。また、ご寄稿もお待ちしております。尚、ご連絡は手紙（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

### 当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

- ・維持会費：一口 年 50,000 円
- ・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受けた「公益財団法人」であり、さらに、令和2年3月27日に「税額控除」対象法人の要件を満たす証明書を内閣府より受けましたので、上記（1）（2）の一般ご寄付及び維持会賛助会の会費は、税制上の優遇措置を受けられます。①「所得控除」②「税額控除」のいずれか減税効果の高い方を選択できます。

多くの場合、「税額控除」を選択されると所得税額が少なくなり有利となります。一方、所得税率の高い方は、「所得控除」を選ばれると還付額が大きくなる場合もあります。確定申告の際には最寄りの税務署にご相談ください。

### 公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

- ▶当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶専任研究員紹介、書籍案内
- ▶公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど

東方学院専用ホームページ URL :

<https://www.toho-gakuin.org>

（スマートフォン対応）

- ▶東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和2年度 前期号（通号第36号）

令和2年10月9日発行

【編集 / 発行】 公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局（東京）

編集責任者：釈悟震

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4階

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082